

眼科に通院中の患者さまへ

当院においては、黄斑円孔網膜剥離という病気に対する新しい硝子体手術を行っていますが、その手術方法に対する臨床研究が現在我が国で進められており、当院も参加しています。黄斑円孔網膜剥離とはとても強い近視の方が高齢になるとともに網膜が牽引され中心部に穴が開き網膜が剥がれてしまう失明の恐れが高い病気です。

今までの手術は網膜を牽引している眼内の硝子体（ゲル状の組織）を切除し、網膜表層にある増殖組織を内境界膜（網膜の表層組織）ごとを除去して網膜の伸展性を高めて網膜を復位させていました。しかし、その手術では円孔閉鎖率は約70%、視力向上率は50%が限界です。最近、新しい手術として円孔に隣接する内境界膜を翻転して穴を塞ぐ方法が登場し、良好な結果が報告されております。

黄斑円孔網膜剥離は稀な病気のため、1施設では患者数を多く集めることはできません。新しい手術の成績や安全性を明らかにするためには、全国レベルで多くの人を対象に調査をすることが必要との考えでこの研究が計画されました。

まずは、過去に当院で黄斑円孔網膜剥離に対する硝子体手術を受けられた方を対象に、年齢、性別をはじめ、眼科検査結果（視力、眼圧、眼軸長、円孔の状態など）を調べて過去の手術に対する優位性を明らかにしていきます。

当院でこの研究の対象となる患者さんはおおよそ10名程度おられます。対象となる患者さんがこの研究で、利益を被ることも不利益も被ることはありませんが、研究に参加したくない場合は対象から外すことが可能です。また、あらためて研究についてご説明させていただくことも可能です。

【対象となる方】

2008年1月1日～2014年7月31日の間に、黄斑円孔網膜剥離の治療手術を受けられた方

【研究課題名】

内境界膜翻転法を用いた黄斑円孔網膜剥離の治療成績に関する後ろ向き研究（6施設）

【主任研究者】

横浜市立大学附属市民総合医療センター 山根 真

【当院の責任者】

福井赤十字病院 眼科部長 小堀 朗

【個人情報の取り扱い】

利用するカルテ情報は年齢、性別、既往歴、眼科検査結果、治療経過です。個人を特定する情報（名前、生年月日など）は扱いません。

【問合せ先】

◆この研究に関する窓口

福井赤十字病院 医療支援課 電話 0776-36-3630(代表)